



突撃!

ガンシン 現場レポート

Vol.8
11月号

私が紹介
します!



建設事業部 課長
くらます としあき
倉増 利明

私たちの日常の中に溶け込んでいる「工事現場」。
知っているようで知らない、現場の裏側をお聞きました!

工事名: 市道中津町45号線の道路整備工事、
舗装工事、それに伴う付帯工事
発注者: 岩国市

施工範囲の約500mの中で、舗装の
傷んでいる部分を取り替えて修繕する。



現場で常に心がけていること

まずは安全第一の意識です。やはり、これが前提ですし、
工事に携わる者としては当たり前ですけど、だからこそ
強く認識しなければいけないのではないのでしょうか。こ
ういった部分から、信頼も生まれてきますよね。また、そ
れ以外に特に意識していることは、近隣住民の方との関
わり方です。道路というのは、住民の方にとっても生命
線になるものですから、補修工事は絶対に必要です。し
かし、同時に住民の方の日常生活にとって不便を生んで
しまうこともあります。そのため、配慮は必要になって

くるのではないのでしょうか。挨拶回りに出向いて、回覧板
などで周知することで、事前にご理解をいただくととも
に、お互い持ちつ持たれつですから、良好な関係を築ける
ように意識しています。そういった地道な取り組みをし
ていくと、近隣住民の方が気にかけてくださり、「ありが
とう」とお声がけいただくこともあります。そうやって見
てくださる人がいる、誰かの生活の当たり前を担ってい
ることが、仕事へのやりがいです。

今回の現場で気が付いたこと

近隣住民の方からトラブルや苦情がないように、基本を
徹底しました。挨拶や回覧板をまわすのはもちろんのこ
と、工事現場に看板を立てたり、歩行者が通れるように
仮設の歩道を作ったりと、少しでも住民の方の日常に影
響を与えないことを意識しています。本当は通行止めに
して工事を行うのが一番楽ですけどね(笑)

また、質の高い工事ができるよう、現場ではメリハリを大
切にしています。例えば休憩ごとに集まって雑談を交わ
し息抜きを行っています。ピリッと張り詰めた場所で仕
事をし続けても、おそらく業務効率は上がりません。当た
り前を大事にし、工事にあたるチームのコミュニケーション
を取る必要があるのではないのでしょうか。

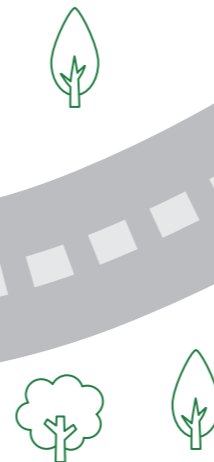


まず、バックホーと言われ
るショベルカーを使って
アスファルトの下にある
土を掘削します。不良土と
いわれる傷んだ土を1m
ほど掘ったあとは、良質土
といわれる新しい土に入れ
替えます。



その後グレーダーという重
機を使い、碎石を平らにして
ローラで転圧します。これ
を行うことによって新しいア
スファルトを敷き直すこと
ができます。さらに、その過
程で歩道と車道を明確に分
ける作業も行っています。

再びバックホーを使って
埋め戻した土を、ある程度
敷き均します。



突撃!

ガンシン 現場レポート

私が紹介
します!



建設事業部
柱島事務所長
いしおか かず お
石岡 計雄

工事名: 端島漁港物揚場改修工事
発注者: 岩国市



離島の港補修工事で、老朽化した部分を撤去して新設しています。現在は片付けに入っているため作業員は6名ですが、繁忙期は10名ほどが担当していました。潜水士の資格を持つ者が2名いるので、部品を海に落としたときや、海中の足場を組むときには大活躍しています。もう20年近く泊まり込んで作業していて、平均年齢は50代と高めです。



まず老朽化したコンクリートブロックの近くに足場を建設するために、牡蠣など身体を傷つけてしまうものを除去します。



その後、コンクリートブロックより少し低く足場を作ってから、傷んだ上部を大型重機で取り壊し、撤去します。潮に合わせて活動しないといけないため、撤去だけで2か月ほどかかってしまいます。



現場で活躍している重機

コンボという掘削機械です。先についたバケツは、泥をすくう、トラックに積み込む、現場の泥を整地するなど様々な用途に使えるところが便利ですね。アタッチメントを変えるとコンクリートも取り壊しできます。島ではレッカーが使用できないので、汎用性の高いコンボは大活躍しています!



現場で苦勞した点

潮に合わせて仕事をしなければいけないことです。現場となる瀬戸内海は特に潮の満ち引きの差が大きく、2週間先まで考えながら働いています。潮がひく大潮の時間のみ海上に現れる場所もあるので、作業が深夜になることも。潮の高さが30センチ程度になると号令をかけて作業を中断し、材料を引き上げます。変則的ですが、引き潮になってから潮が満ちるまでは大体4~5時間です。潮が引くまでに全ての材料を準備するので、働く時間は合わせて8時間くらいになりますね。型枠の材料を持って



印象深いエピソード

餌として弁当をあげていたら、1か月もしないうちに野生のとんびが懐いて手に飛んでくるようになりました。島には食べ物が少ないのか、4~5羽集まりますね。作業員は全員単身赴任で泊まり込みをしているので、空き家を3棟借りてリフォームし、そこに分かれて住んでいます。今はプライバシーの問題で1人1部屋じゃないといけないので(笑)仕事が終わるとすぐ酒盛りをすることもあり、仲は良いですね。



いって、潮が引いたと同時に材料をおろして、型枠を組む。潮が満ちてきたら中止し、次の日潮が引いたときにコンクリートを入れる。一気に施工できないことがもどかしいです。また物資が少なく、人力で行う部分が多いことも大変な点です。普通は機械でコンクリートを練るのですが、島では少量でも船舶で運ばないといけなくなってしまうため、コスト削減の観点から人力で練っています。固まるまで4時間ほどかかりますね。

完成!!

そこに新たな護岸の擁壁を建設し、塗装を行うと完成です。物置場として漁具や生活物資を置くところになります。コンクリートを海中に落とさないように気をつけながら、作業しています。

